

株式会社島津製作所
(東証プライム市場：証券コード7701)

2026年3月期 中間期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則

2025年11月10日

本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは、2026年3月期の中間期決算の内容をご説明いたします。

まず、今年私どもは創業150年を迎えました。主には私どもを普段支えていただいている代理店の方々、ものづくりを支えていただく協力会社の方々、お客様、それに加えて、私どもの会社の周りにお住いの地域住民の方々含めまして、関係する皆様に感謝の意を込めて、1月からさまざまな取り組みを行いました。

本日までご参加いただいている皆様にも、多大なご支援を賜っており大変ありがとうございます。どうぞ引き続きよろしく願いいたします。

中間期業績 増収増益

売上高は5期連続で過去最高

- ・【売上高】 **2,563億円(前期比+2%)**
- ・【営業利益】 **316億円(前期比+4%)**

セグメント別

- ・計測は増収増益 / 売上高過去最高。重点機種*も売上高過去最高
- ・航空は増収大幅増益 / 売上高・営業利益とも過去最高を更新
- ・医用、産業は減収減益

地域別

- ・日本：増収 / 計測の液体クロマトグラフ（LC）と質量分析システム（MS）が好調
- ・北米：増収 / 計測のMS、医用のX線TVシステムが好調
- ・中国：減収 / 産業のターボ分子ポンプ（TMP）は大幅増

2026年3月期 業績予想

米国関税の世界経済・当社事業への影響と為替レートを見直し、上方修正

- ・【売上高】 **5,450億円(前期比+1.1%) (5月公表値+300億円)**
- ・【営業利益】 **720億円(前期比+0.4%) (5月公表値+140億円)**

では、早速ですが説明に入らせていただきます。まずハイライトですが、中間期の業績は増収増益で終わることができました。特に売上高は5期連続で過去最高ということで、2,563億円、前期比2%増でした。

当初、米国の関税影響が世界経済に相当影響し、日本を含む各国のお客様にもかなりの影響が出るのではないかと厳しい見込みを立てていました。しかし、後ほど申し上げますが、上期の影響はかなり小さく、結果として私どもの当初の見込みを大きく狂わせることになり、売上高は2%増加で終わることができました。

セグメント別です。計測は増収増益、売上高は過去最高となりました。液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフの重点機種合計も、売上高で過去最高でした。航空はコロナ禍には大変厳しかったですが、政府の防衛予算の増加、あるいはコロナが明け人が世界中をまた行き来する時代になったことにより、増収幅が大きく増え、売上高、営業利益とも過去最高となりました。一方、医用と産業が上期減収減益で終わっております。後ほどご説明します。

地域別には、日本と北米が増収となり、計測の重点機種含めさまざまな機種が、好調な市場で伸びることができました。

中国は引き続きまだ減収です。半導体業界向けのターボ分子ポンプは中国で大幅に増えましたが、それ以外の製品群がなかなか厳しいという状況が継続しました。

26年度3月期の業績予想は、米国関税の世界経済・当社事業への影響に加え、為替レートを見直したことにより、売上高で5,450億円、営業利益で720億円に上方修正いたします。

01 決算概要

	単位：億円	中間期(4月-9月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	2,512	2,563	+51	+2%
	営業利益	302	316	+14	+4%
	営業利益率	12.0%	12.3%	+0.3pt	
	経常利益	284	313	+29	+10%
	親会社株主に帰属する当期純利益	213	236	+23	+11%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	152.68	146.08	▲6.60	▲4%
	ユーロ（円）	165.98	168.10	+2.12	+1%
	研究開発費	135	143	+9	
	設備投資額	111	119	+8	
	減価償却費	97	99	+2	

決算の概要です。ここでは簡単にご説明いたします。連結業績は、売上高、営業利益、先ほど申し上げたとおりで、営業利益率も0.3ポイント改善して12.3%という結果で終わっています。

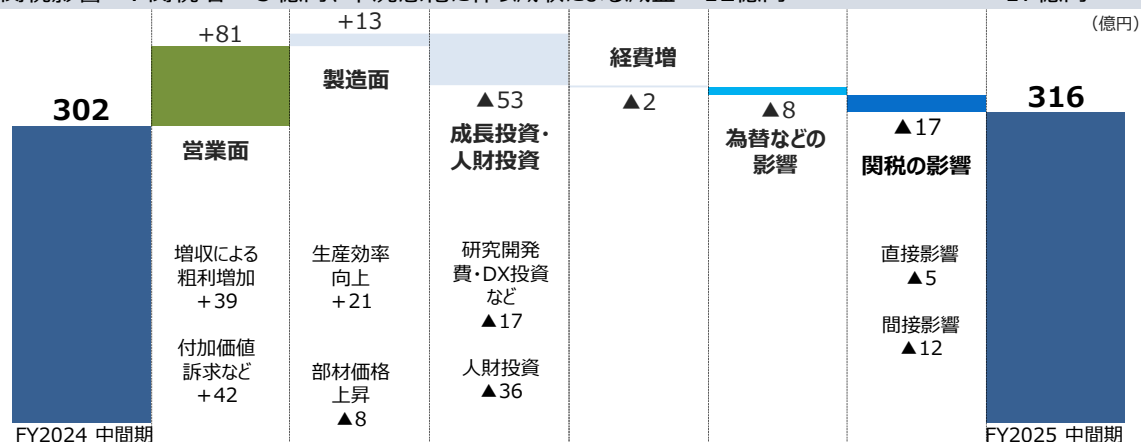
投資面では、研究開発費が昨年よりも9億円増、設備投資も8億円増となっています。

連結 / 営業利益増減要因



【営業利益】 **316億円(前期比+4%)** 【営業利益率】 **12.3% (対前期+0.3pt)**

- 営業面 : 増収や付加価値訴求により利益増加 +81億円
- 製造面 : 部材価格上昇分を生産効率向上によるコストダウンが上回り利益増加 +13億円
- 成長投資 : 研究開発費などに17億円、人財投資に36億円 ▲53億円
- 関税影響 : 関税増▲5億円、市況悪化に伴う減収による減益▲12億円 ▲17億円



SHIMADZU

*記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期中間期決算説明会

5

続きまして、営業利益の増減要因をご説明します。営業利益は302億円から316億円と、約14億円増えましたが、営業面での増収により粗利が増え、39億円プラスになりました。加えて、新製品を投入したり、一部値上げもお願いしたりということで、42億円プラスになり、営業面で合計81億円利益を押し上げました。

製造面も売上増により生産が増えたこともあり、生産効率の向上により21億円増えまして、まだ継続する部材価格の上昇等を補いプラス13億円となりました。

成長投資は研究開発費に17億円、人財投資では採用増、教育費、定年延長等により36億円増やしています。

それから関税影響としては、また後ほど申しますが、北米の子会社が輸入したときに支払う関税が増え、5億円マイナスに影響しています。関税影響による市況悪化では12億円ほどマイナスに出て、合計で17億円マイナスです。

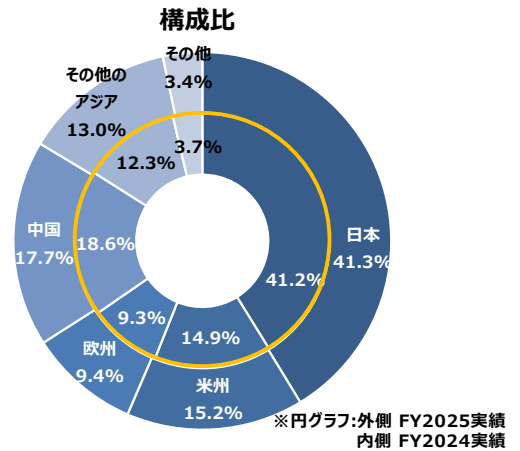
結果、昨年から14億円プラスして316億円で終わることができました。

連結 / 地域別売上高



- 売上高 : 中国を除く主要地域で増収。
- 日本 : 重点機種（液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフ）と試験機が増加
- 海外 : 米州、その他アジアで質量分析システムが増加。 海外売上高比率は58.7%、対前期0.1pt減

単位 億円	売上高				構成比		
	FY2024 中間期	FY2025 中間期	前期比 増減額	前期比 増減率	FY2024 中間期	FY2025 中間期	前期比 増減
日本	1,034	1,058	+24	+2%	41.2%	41.3%	+0.1pt
海外	1,478	1,505	+27	+2%	58.8%	58.7%	▲0.1pt
米州	374	388	+14	+4%	14.9%	15.1%	+0.2pt
欧州	233	242	+9	+4%	9.3%	9.4%	+0.2pt
中国	466	453	▲13	▲3%	18.6%	17.7%	▲0.9pt
その他のアジア	310	334	+24	+8%	12.3%	13.0%	+0.7pt
その他	93	86	▲7	▲8%	3.7%	3.4%	▲0.3pt



*本スライド記載の数値のみ、決算短信に合わせ億円未満を切り捨てしております。
*その他アジア地域：インド、東南アジア、韓国、台湾

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期中間期決算説明会

続きまして、地域別の売上高についてこのページにまとめています。中国が前期比マイナスですが、他の地域はプラスで終わらせることができました。

セグメント別損益

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 計測：増収増益 /売上高は5期連続で過去最高を更新。
- 医用：減収減益 /期初の受注残高が少なく、売上高・営業利益とも減少。2Qは増収増益に回復
- 産業：減収減益 /TMPのリカーリング事業と油圧機器は順調に増加。半導体製造装置向けTMPが弱含み
- 航空：増収増益 /売上高・営業利益・営業利益率が2期連続で過去最高を更新

単位 億円	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2025 中間期	前年同期比		FY2025 中間期	前年同期比		FY2025 中間期	前年同期比 増減
		増減額	増減率		増減額	増減率		
合計	2,563	+51	+2%	316	+14	+4%	12.3%	+0.3pt
計測機器	1,681	+75	+5%	234	+21	+10%	13.9%	+0.7pt
医用機器	336	▲4	▲1%	13	▲3	▲21%	3.8%	▲0.9pt
産業機器	329	▲31	▲9%	46	▲7	▲13%	14.0%	▲0.7pt
航空機器	182	+2	+1%	36	+12	+49%	19.6%	+6.3pt

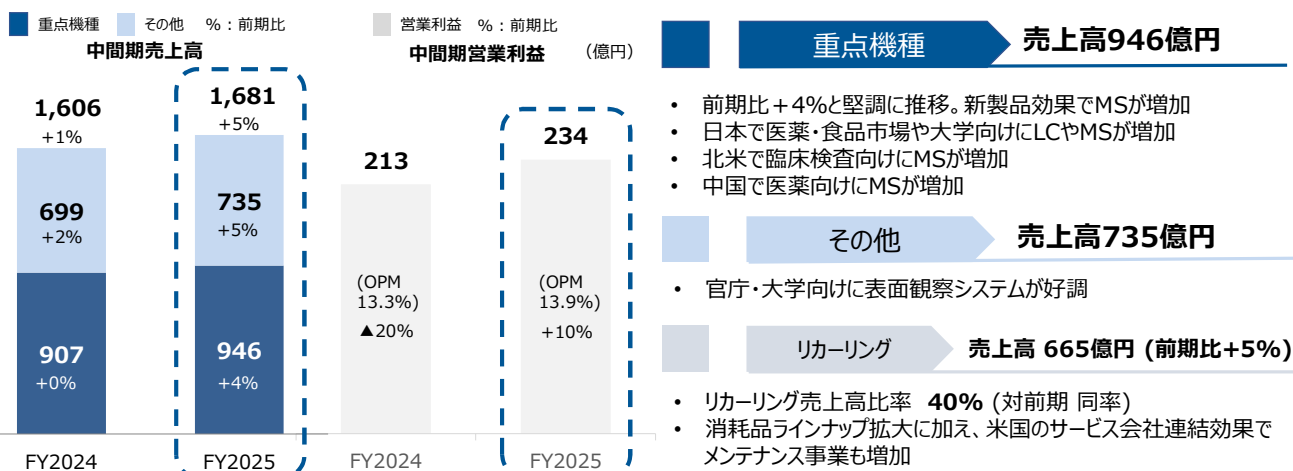
続けてセグメント別の損益です。計測は増収増益で、先ほど申しましたとおりです。売上高75億円増でプラス5%、営業利益は21億円増でプラス10%でした。円高進行により、昨年と比べて実力値ではもう少しプラスだったということになります。

医用は、売上は1%減、営業利益21%減ということで、後ほどご説明します。産業もマイナス、一方で航空がプラスでした。

営業利益率をご覧くださいと、航空が19.6%と最も高くなりました。さまざまな要素があり、特にこの上半期は良い結果で終わりました。

【増収増益】 売上高が5期連続で過去最高を更新。リカーリング売上高は前期比5%増加

- 売上高 : 重点機種は新製品効果などで、その他機種も研究開発用途で増加し、過去最高を更新
- 営業利益 : 売上増加による利益増で増益。営業利益率も13.9%で、対前期+0.7pt向上



SHIMADZU

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期中間期決算説明会

8

ここからはセグメント別で、まず計測についてご説明します。重点機種、その他機種ともにしっかり成長することができ、重点機種では4%伸びました。その他機種では、主にイギリスで作っている大学向けの表面観察システムが好調で、その他機種合計で5%伸びました。

リカーリング事業も売上高としてはしっかり伸び、消耗品ラインナップ拡大に加え、米国でサービス会社を買収し、第1クォーターまで連結効果があったこともあり5%増えました。ただ、製品の売上高も増えましたので、リカーリング売上高比率は40%で、前年同期で同じ形になっております。

営業利益率は対前期0.7ポイント向上しており、13.9%になっています。

計測機器 / 地域別売上高

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 中国を除く主要地域で成長
- 国内は、医薬、食品、大学、電機市場向けに多くの製品を展開し8%増加
- 北米で臨床検査向け、その他アジアで官庁・大学・医薬・食品向けにMSが増加

単位：億円	FY2024	FY2025	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	559	605	+46	+8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬、食品、大学市場向けにLCやMSが増加 ・ 電機市場向けに試験機が増加
海外	1,047	1,077	+30	+3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外売上高比率は65.2% (▲1.2%)
北米	185	199	+14	+8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床検査向けに北米R&Dセンターで開発したMSが増加 ・ 買収したマルチベンダーサービス会社の業績も貢献
欧州	190	204	+14	+8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学市場向けで小型・高性能が評価されガスクロマトグラフが増加 ・ 官庁大学向けにLCやMSが増加
中国	348	333	▲16	▲4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府の経済対策により官公庁・大学の需要は回復傾向 ・ 民間市場はMSが増加したものの市況回復遅れの影響を受けて減少
その他のアジア	226	246	+20	+9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア、韓国で官庁・大学向けにMSが増加 ・ インドでは医薬、食品向けでMSが増加

計測の地域別売上高は、ご覧いただけます通り、中国以外がしっかり伸び、特に日本・北米・欧州・その他のアジアでは10%近い伸びを記録しました。関税影響等々ありながらも、投資が動く市場でさまざまな製品を展開することで、伸ばすことができています。

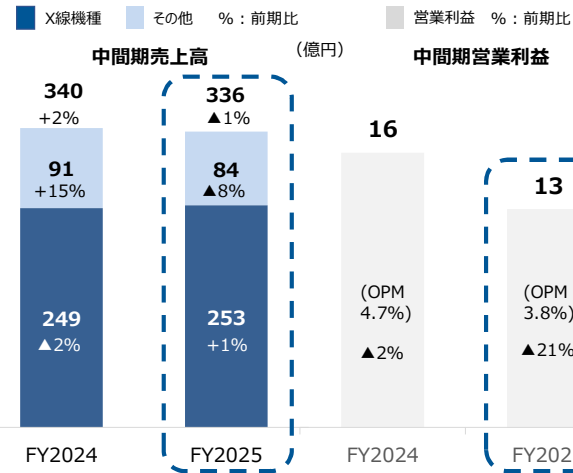
中国だけはなかなか戻ってきていないので、また後ほど申しますが、さまざまなことを行っていかないといけない状況です。

医用機器 / 売上高・営業利益



【減収減益】 期初の受注残高が少なく、売上高、営業利益とも減少。2Qは増収増益に回復

- 売上高 : 中国・欧州では市況回復が見られず減少。北米、東南アジアでは、X線機種が増加し堅調に推移
- 営業利益 : 人件費の増加を売上で補えず減益



X線機種 売上高 253億円

- X線TV : 北米、東南アジアで新製品効果で増加
- 血管撮影システム : 中国・欧州で市況回復遅れにより減少
- 一般撮影システム : 日本で増加も、北米で減少

その他 売上高 84億円

- 放射線治療支援システムが前年の大口案件の反動で減少

リカーリング 売上高 134億円(前期比+3%)

- リカーリング売上高比率 40% (対前期+2pt)
- 部品・サービスとも順調に増加

続けて医用は、減収減益です。中国・欧州の市況があまり良くないことに加え、4月期初の受注残高が少なかったことにより、売上高、営業利益とも減少となっています。

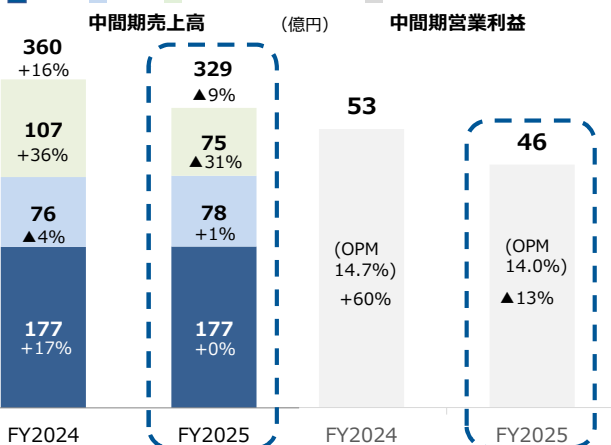
第2クォーターだけ見ていただくと、増収増益に回復しており、この下期にこれが続けられるかどうかといったところが大きなポイントと思っています。アジアを中心にさまざまな施策を講じます。

【減収減益】 EV用セラミックス製造向け工業炉が減少し、TMPの伸びが低く補えずに減収減益

■ 売上高：TMP(前期比+1億円)、油圧(+1億円)は横ばい。工業炉他の事業が大幅減(▲32億円)

■ 営業利益：売上高減少により減益。TMPリカーリング事業は前期比+21%と成長

■ TMP 油圧 その他 %: 前期比 営業利益 %: 前期比



TMP 売上高 177億円

- 半導体製造装置向け販売が減少も、コーティング向けでカバー

TMPリカーリング 売上高 41億円(前期比+21%)

- TMPリカーリング売上高比率 23%(対前期+4pt)
- 中国・その他のアジアで半導体製造装置向けサービスが増加

油圧 売上高 78億円

- 産業車両向けは減少したものの、建設機械・特装車向けなどが増加

その他 売上高 75億円

- EV用セラミック製造向け工業炉が減少

SHIMADZU ※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移管。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期中間決算説明会

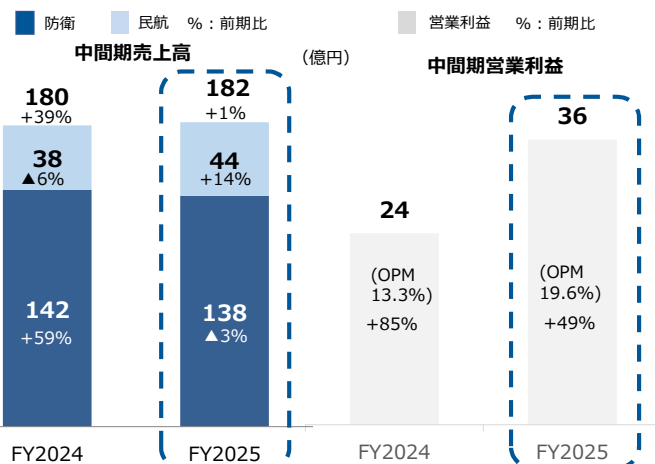
11

産業機械も減収減益です。ターボ分子ポンプが昨年比横ばいとなり、中国以外で半導体向けが減少しましたが、それ以外のコーティング向け、あるいは分析向けでカバーしました。

加えて大きく落ちたのが、一番上にあります、緑色のその他のところにある工業炉です。セラミックスは、EV放熱板や、大電流を流す半導体、ベアリングの磨耗を減らすためのセラミックスボールとして使用されますが、セラミックス製造用途で使用される工業炉が上期大きく減少しました。

【増収増益】 売上高・営業利益・営業利益率のすべてが2期連続で過去最高を更新

- 売上高 : 防衛向けは製造課題で減少(前期比▲3%)、民間航空機市場向けは増加(+14%)
- 営業利益 : 増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



防衛 売上高 138億円

- 政府の防衛力強化方針により需要は拡大したものの、サプライチェーンの一部に課題が生じて売上高が減少

民航 売上高 44億円

- 民間航空機向け搭載品や航空会社向け補用部品が増加

最後に航空は増収増益です。売上高、営業利益、営業利益率、全て2期連続で過去最高となりました。

防衛は、政府の防衛力強化方針で需要が非常に拡大し、受注もしっかりいただいておりますが、サプライチェーンの一部で課題が生じたため、売上高は残念ながら減少しました。

一方で、民間航空機が先ほど申しましたとおり伸びました。非常にたくさん飛行機が飛ぶようになり、飛行機の飛行距離に応じて、重要な部品が交換されることとなりますので、補用部品が大きく増えました。この民間航空機が伸びると利益率が高いので、営業利益も大きく伸びました。

02 2025年度通期業績予想

2025年度通期業績予想



米国関税の世界経済・当社事業への影響と為替レートを見直し、業績予想を上方修正

- 売上高 **5,450億円** (対期初公表+300億円)
- 営業利益 **720億円** (対期初公表+140億円)

売上高	5,450 億円	対前期 + 60 億円	対期初公表 + 300 億円
営業利益	720 億円	対前期 + 3 億円	対期初公表 + 140 億円
経常利益	720 億円	対前期 0 億円	対期初公表 + 140 億円
当期純利益	540 億円	対前期 + 2 億円	対期初公表 + 90 億円

想定為替レート

米ドル：145円
ユーロ：165円

研究開発費

300 億円
対前期 対期初公表
+11 億円 **+5** 億円

設備投資

250 億円
対前期 対期初公表
+21 億円 **-**

減価償却

200 億円
対前期 対期初公表
+1 億円 **-**

続きまして、通期業績予想をご説明いたします。数字は先ほど申し上げたとおり、売上高5,450億円で期初よりも300億円プラス、営業利益が期初より140億円プラスの720億円です。

申しあげましたとおり関税影響の見直しと、為替レート140円を145円に見直したため、業績予想を上方修正しました。研究開発費も期初より5億円プラスを予定しております。

米国関税の世界経済・当社事業への影響見直し



- 各国への関税率は期初公表時点からは引き下げ。日本の関税率は15%（8月7日から発動）
- 主な影響は ①市況悪化による影響（間接的影響） **売上高▲50億円 営業利益▲30億円**
②米国子会社の関税増（直接的影響） **営業利益▲18億円**
- 関税影響見込み額（見直し後）：**売上高▲50億円 営業利益▲48億円**

主な影響	期初想定影響額 (前期比)	期初からの改善額	修正想定影響額 (前期比)
① 市況悪化に伴う売上減 (間接的影響)	売上高 ▲250億円 営業利益▲150億円 グローバルな市況悪化を懸念	売上高 200億円 営業利益 120億円 グローバルに市況悪化懸念が緩和	売上高 ▲50億円 営業利益 ▲30億円 日本・北米・欧州・中国で関税影響が残る □ 中間期影響額：売上高▲20億円、営業利益▲12億円 □ 想定下期影響額：売上高▲30億円、営業利益▲18億円
② 米国子会社の関税増 (直接的影響)	営業利益 ▲30億円	営業利益 12億円 関税率の引き下げによるコスト減	営業利益 ▲18億円 □ 中間期影響額：営業利益 ▲5億円 □ 想定下期影響額：営業利益▲13億円
合計	売上高 ▲250億円 営業利益 ▲180億円	売上高 200億円 営業利益 132億円	売上高 ▲50億円 営業利益 ▲48億円 □ 中間期影響額：売上高▲20億円、営業利益▲17億円 □ 想定下期影響額：売上高▲30億円、営業利益▲31億円

米国関税の世界経済・当社事業の影響見直しについて、期初の想定と現在の想定の間方をご説明します。

各国への関税率が期初の公表時点から引き下げられ、例えば日本であれば15%になりました。もともとは各国で関税が上がるのでアメリカへの輸出が減り、世界経済が減速して、当社の業績面でも下押しになると想定しました。この米国関税の間接影響は、各地域の営業からの情報を基に見込みを立て、当初は世界で売上高が250億円落ちると試算しました。

しかし、中間期の関税の間接影響額は売上高で20億円であり、これを受け、年間でも50億円程度の落ちで収まるのではないかとということで、売上高250億円落ちから50億円落ちに変更しました。売上高に伴い、営業利益も150億円落ちから30億円の落ちに見立てを変更し、売上高200億円と営業利益120億円を期初想定からの改善額として計上しました。

加えて、米国の子会社が直接輸入することによる関税の増加分を30億円と想定していたのですが、在庫等々もありましたので、中間期の影響額は5億円で収まりました。これから在庫補充するといったことも含めて見込みますと、下期では13億円ぐらいになると想定します。合計18億円の影響で、期初想定から12億円の改善となります。

両影響を合わせ、売上高で50億円、営業利益で48億円の影響で収まるであろうという見込みを立てています。

加えて、為替を5円変えておりますので、こちらでも売上高で100億円改善ということで、先ほどの公表値にさせていただいております。

2025年度通期セグメント別業績予想

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 計測：増収増益 /ヘルスケア、グリーン、マテリアル市場での新製品拡販で、6期連続過去最高売上高を目指す
- 医用：減収減益 /アジア地域を除く各地で市況回復遅れを予想し、売上高・営業利益とも減少と見込む
- 産業：減収減益 /EV向けセラミックス製造用工業炉の苦戦を予想して、売上高・営業利益とも減少と見込む
- 航空：増収減益 /好調な需要を背景に増収を予想するが、防衛案件が増加することから営業利益は減少と見込む

単位: 億円	売上高			営業利益			営業利益率		
	FY2024	FY2025 新予想	前期比 増減額	FY2024	FY2025 新予想	前期比 増減額	FY2024	FY2025 新予想	前期比 増減
合計	5,390	5,450	+60	717	720	+3	13.3%	13.2%	▲0.1pt
計測機器	3,479	3,550	+71	521	565	+44	15.0%	15.9%	+0.9pt
医用機器	726	720	▲6	43	40	▲3	5.9%	5.6%	▲0.3pt
産業機器	723	700	▲23	105	95	▲10	14.5%	13.6%	▲0.9pt
航空機器	387	390	+3	61	50	▲11	15.7%	12.8%	▲2.9pt

セグメント別業績予想です。計測は売上高で前期比71億円、営業利益で44億円のプラスを想定します。期初想定した関税影響の大半が計測で受けると予想していたため、対前年、対期初計画ともに、計測が大きく改善する見込みです。6期連続の過去最高売上高を目指します。

医用は上半期を見た結果、アジア地域を除く各地で市況回復遅れが続くと予想されますので、売上高、営業利益とも減少を見込みます。

産業は、先ほど申しあげましたEVセラミック製造用工業炉が、今受注いただいても売り上げられるのは来年以降となってしまいますので苦戦となり、売上高、営業利益とも減少で見込んでいます。

航空は、好調な需要を背景に増収を予想しますが、これから防衛の案件が増えるということで、利益率が少し変わってまいりまして、営業利益は減少見込みです。

計測機器／地域別の取り組み内容と通期見込み



各地域で、動きのある市場、顧客に、ソリューション提供 と 新製品の拡販を展開

- 北米・その他アジア地域では、市場別顧客別に開発投資・設備投資が動くことを期待。ソリューション提案で事業拡大
- 日本は開発投資を期待し、新製品を展開。 欧州、中国は踊り場と見込む

地域	取り組み内容	通期売上高 前年比
連結	動きのある市場、顧客に、ソリューション提供と新製品拡販を展開	+4-6%
日本	<ul style="list-style-type: none"> □ 投資の活発な医薬市場やPFAS規制市場、GMP(適正製造規範)対応が進む機能性食品市場、GX関連市場、補正予算で好調な官庁/大学市場の需要を獲得 	+4-6%
北米	18ページ参照	+10-13%
欧州	<ul style="list-style-type: none"> □ 政治・経済不安の中、回復傾向の官庁/大学市場への取り組みを強化 □ 好調な臨床市場への需要の獲得 □ グリーン市場のエネルギー・リサイクル分野への取り組みを強化 	+0-3%
中国	18ページ参照	+0-3%
その他のアジア	<ul style="list-style-type: none"> □ 自国生産強化や規制対応強化など好調な医薬市場への取り組みを強化 □ 輸出対応により拡大が予想される食品品質管理分野への取り組みを強化 □ 韓国の半導体関連市場への取り組みを強化 	+10-13%
(内数) インド	□ 製薬・化学・食品・受託分析市場では、需要が旺盛で高い成長率を見込む	+10-13%

続けて、計測の地域別の取り組み内容と通期の見込みをご説明します。

基本的には各地域で動きのある市場、あるいは動きのあるお客様にフォーカスして、ソリューション提供と新製品の拡販を展開しようということで、業績を確保します。特に北米とその他のアジアでは、市場別顧客別に開発投資・設備投資が動くことを期待しております。

北米は次ページでご説明しますが、その他のアジアを見ていただきますと、アジア各国は自国生産強化や規制対応強化の動きがあり、特に医薬市場に対し政府が投資を行っています。上半期もその他のアジアは医薬市場から結構な受注・売上をいただきましたが、下期も好調を維持すると見ております。そして、輸出対応も追い風です。欧州や日本も共通ですが、食品の輸出を強化しようという動きがございます。食品を輸出する上では品質管理が非常に重要になりますので、品質管理用の製品群を伸ばします。加えて、韓国では半導体関連市場への取り組みを強化し、その他のアジア全体では通期で、為替を除き売上高前年比で10%から13%の成長を見込んでいます。

特にインドは、製薬・化学・食品・受託分析といったところで需要が旺盛です。北米との関税問題もありますが、政府の様々な施策により、高い成長率が続くのではないかと見込んでおります。

欧州は大変厳しくて、なかなか動きがありません。政治・経済の不安は残りますが、EUの予算が動くのではないかと期待し、取り組みを強化します。臨床市場、そしてグリーン市場に向けてのサーキュラーエコノミー関係の投資が動いていますので、需要をしっかりと取り込み、売上を昨年比プラス方向に持っていきたいと思っています。

日本は、医薬品、PFAS規制、食品関係でGMP対応が進むといった動き、GX関連、補正予算、そして開発投資が各所で動いていますので、これらの需要を獲得していきます。

計測機器/北米・中国の取り組みと通期見込み



- 北米：アカデミア・製薬・グリーン関係で厳しい状況を予想するが、動きのある顧客へトータルソリューション提供を強化
- 中国：民需は回復期待は薄いが、薬典改訂の効果等があり製薬/CxO市場は回復傾向と見込む
官需は政府の経済対策により動きが出ているが、一部入札遅延も見られ、本格回復時期は見通せず

北米：通期売上高 前年比 +10-13% (為替影響を除く)

中国：通期売上高 前年比 +0-3% (為替影響を除く)

ヘルスケア ＜製薬・臨床＞	<ul style="list-style-type: none"> □ 中小製薬企業に新製品を展開 □ 北米で開発した多検体処理LCMSシステムを臨床市場で展開 □ マルチベンダーサービスを強化し、販売とのシナジーを追求
グリーン ＜環境・GX＞	<ul style="list-style-type: none"> □ PFAS需要に向けLCMS新製品を展開 □ 回復が期待されるLiB市場向けに、各種検査装置を展開
アカデミア・官庁	<ul style="list-style-type: none"> □ 引き続き停滞する見込みの中、新素材開発向けに 試験機、表面観察装置のほか各種分析装置を展開

北米R&Dセンター

- 医薬・臨床関連中心の開発センター
- 製薬、バイオテック企業との共同研究を加速
- 現在進行中の開発テーマは16件

政府の経済対策 大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画 (~2027年)	<ul style="list-style-type: none"> □ 昨年度の受注残案件を売上展開 □ アカデミア中心に 中間期受注約10MUSD □ 下期以降、アカデミアに加えて、税関や各種検査機関でも動く可能性があり、分析相談/サービス支援を強化
ヘルスケア ＜製薬＞	<ul style="list-style-type: none"> □ 10月施行の薬典改訂に伴う新規/更新需要が拡大 中間期受注は10MUSD強 □ 薬典改訂対応として顧客別アプリケーションを提供。継続する需要へ対応 □ 需要の拡大するバイオ医薬市場向けにLC、MSを拡販
グリーン＜環境＞ 生態環境監測標準体系を公布 PFASを含む14物質が対象	<ul style="list-style-type: none"> □ PFAS関連の国家標準制定に向けて、政府系検査機関の分析メソッド開発支援を強化



北米と中国について、ご説明します。北米は、特にアカデミアが大変厳しいです。製薬も大手製薬の動きがなかなかなく、厳しい状況ですが、中小の製薬では動きがあり、上半期もいくらか受注・売上をいただきました。動きのある中小製薬に新製品を展開し、特に、以前に買っていたモデルの更新需要を取り込むべく、取り組みを強化しております。

そして、北米R&Dセンターで開発した多検体処理のLCMSシステムが、臨床市場でかなり好評いただいております。こちらの展開を続けます。加えて、昨年度サービス会社を連結しましたので、製薬・臨床というヘルスケア業界でマルチベンダーサービスを強化し、販売とのシナジーを追求します。

グリーンは、トランプ政権発足当初は止まるのではないかとおりましたが、リチウムバッテリー等々の市場は動き出しており、各種検査装置を展開します。PFASも規制の強化が止まるのではないかとおられていましたが、水道水はなかなか今動きがない一方、排水中のPFASで少し動きがありますので、新製品を展開します。

アカデミアは大変厳しいですが、新素材の開発等に向け、試験機、表面観察装置等を展開します。北米全体で、昨年比10%から13%ぐらいの伸びを見込んでいます。

中国は、右に記載したとおり、政府の経済対策は続いています。上半期で約10MUSD受注をいただいたのですが、一部動きが止まっているようなところもあるので、それがいつ動くかも気になるところです。アカデミアや税関で動きを期待しており、各種支援を強化しております。

ヘルスケアでは、薬典改訂が今年度あり、上半期では10MUSDほど受注をいただきました。この売上と、下半期も需要が一定程度続くと想定され、プラスを期待しております。

ただ、それ以外の民間市場は非常に動きが悪く、本格的な回復がまだ待たれる状況です。今年度は中国で何とか前年比プラス方向に持っていく予定です。

新製品上市の状況（2Qリリース）



ベストセラーモデルの新製品

一体型液体クロマトグラフ i-Series LC-2070/2080

2025年9月発売

- 分析前の装置診断を自動化
ダウンタイムを予防し安定分析を強力にサポート
- カラム管理機能でデータ信頼性を向上
- エコフレンドリー仕様
リサイクル樹脂を使用、消費電力を削減

ターゲット市場：製薬（品質管理部門） など



高速液体クロマトグラフィ分析装置 Nexera CL LCMS システム

2025年10月発売

臨床市場向け 新製品

- 新生児マススクリーニングや血中の薬物モニタリングなど、需要が広がる臨床市場向けに開発
- 「多成分同時分析」「抗体間の交差反応が起きない精密分析」
- 従来の産業/研究用途向け製品の性能やメンテナンス性を継承

ターゲット市場：臨床（血液などの分析）



新型ガスクロマトグラフ FluxEdge GC Systems

2025年9月発売

少量・高速・高信頼性分析を提供



- 数μl(1/30程度)のサンプルで測定可能
- 約1/3の短時間分析
- 数百倍の新開発耐久性小型バルブ使用
- 高再現性、低キャリアオーバーで、メンテナンスも実現（すべて当社比）

ターゲット市場：新エネルギー・電池・触媒関連など産業分野

産業用最上位ブランドの新製品

マイクロフォーカスX線CTシステムinspeXio 7000

2025年10月発売



- 当社比50倍の高速演算処理で高速撮影
- 高コントラストで大画面の撮影
- 低密度材料も、X線が透過しづらい材料も新X線発生器で高画質な観察が可能
- φ400mm高さ300mm 重さ20kgまで対応

ターゲット市場：電池・電子部品関連など産業分野



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期中間決算説明会

19

第1クォーターで新製品6種類ほどご説明させていただきましたけども、第2クォーターでリリースしたものが四つほどございます。

一つがベストセラーモデルの新製品ということで、9月に一体型の液体クロマトグラフのi-Seriesの新しいモデルを投入しました。分析前の装置診断を全部自動で行うということで、お客様のところで起こるかもしれないダウンタイムを完全に予防し、安定分析を強力にサポートする製品です。製薬市場、特にインドや北米の中小製薬でお使いいただきたい製品です。

それから、右の液体クロマトグラフの分析装置、Nexera CL LCMS システムです。こちらは臨床市場向けに開発した新製品で、新生児マススクリーニング等々に対し、国内外で展開します。従来よりも臨床試験にフィットした形の装置にしてあり、力強い成長を期待する製品です。

左下がガスクロマトグラフのちょっと面白い新製品で、当社独自のユニークな製品です。半導体の設計製造技術を活用し、シリコンウエハーの上でオンオフする超小型のバルブを作りました。このバルブを使えば、ガスクロマトグラフで液体を流していただくときの流量が従来の30分の1程度の数ミリリットルで済み、加えて、分析時間も従来の分析の3分の1程度に抑えられます。バルブ自身の耐久性も、従来のバルブよりも数百倍あるといったような製品になり、本製品が可能にする少量・高速・高信頼性分析により、新しい分野を開いていきたいと考えます。

右下が産業用最上位のブランドの新製品で、産業用X線CT装置です。当社従来比50倍の高速演算処理で、高速で電池などの内部を見ていただける装置になります。圧倒的な速さで、しかも重さ20キロまで、サイズ400ファイで高さ300ミリまでの大型なものまで見ることができる、電池等々のニーズに合った製品です。

これら新製品ラインナップを活用し、下期はしっかり成長していきたいと考えております。私からの説明は以上です。ありがとうございます。

ご参考：8月までにリリースした新製品



**高速液体クロマトグラフ質量分析システム
LCMS-8065XE**
2025年8月発売

- 品質管理や環境規制の厳格化に伴い、顧客の高感度・多成分一斉分析のニーズに対応
- 超高速測定技術と抜群の安定性により顧客の生産性向上に貢献

ターゲット市場：製薬・臨床・食品・受託分析・化学
公的機関・大学 など



**走査電子顕微鏡
SUPERSCAN SS-3000**
2025年4月発売
SUPERSCAN SS-2000
2025年5月発売

* チェTESCAN社との共同ブランド

- ナノ領域の高分解能観察に加え、材料物性評価を含めた幅広い研究開発用途に対応
- 撮影条件の自動調整により業務効率化にも貢献

ターゲット市場：産業分野・公的機関・大学 など



**MALDI-TOFMS用
微生物同定ソフトウェア
MicrobialTrack**
2025年5月発売

- 感染症対策分野での戦略製品
- 全世界で高まる微生物同定向け検査需要に対応

ターゲット市場：臨床・受託分析・大学 など

**回診用X線撮影装置
MobileDaRt Evolution MX9 Version**
2025年4月発売



- 当社回診用X線撮影装置のフラッグシップモデル
- セカンドモニタと3Dカメラで検査効率化

ターゲット市場：先進国の病院



**精密万能試験機
オートグラフ AGS-Vシリーズ**
2025年5月発売

- 高精度で効率性と操作性を兼ね備えた普及機モデル
- 自動車用部品や電池材料などの研究開発・品質管理に貢献

ターゲット市場：輸送機・化学・電機/電子 など



**マイクロプラスチック向け
粒子解析システム**
2025年8月発売

- 社会課題であるマイクロプラスチックの分析に最適なシステム

* 技術指導：愛媛大学片岡智哉准教授

ターゲット市場：産業分野・公的機関・大学 など

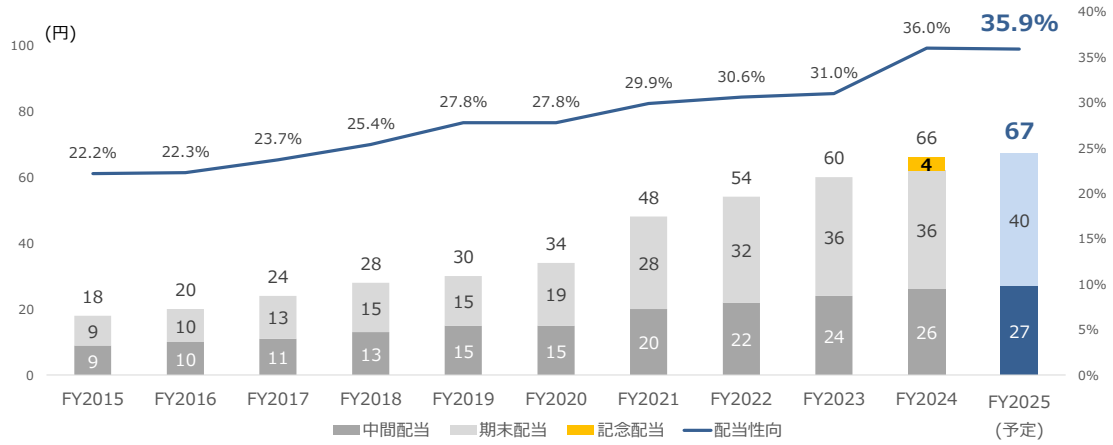
株主還元



方針：配当性向30%以上を維持し、継続的な株主還元を実施する予定

■ 中間配当：前年同期より1円増配の**27円**

■ 年間配当：12期連続増配となる**67円を予定**（期末配当は40円を予定）配当性向：35.9%





本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

連結業績（7-9月）



	単位：億円	第2四半期(7月-9月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	1,343	1,380	+37	+3%
	営業利益	193	194	+1	+1%
	営業利益率	14.3%	14.1%	▲0.3pt	
	経常利益	147	200	+53	+36%
	親会社株主に帰属する当期純利益	113	157	+44	+39%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	149.43	147.53	▲1.90	▲1%
	ユーロ（円）	164.03	172.37	+8.34	+5%
	研究開発費	66	71	+5	
	設備投資額	69	65	▲4	
	減価償却費	48	49	+1	

セグメント別損益（7-9月）



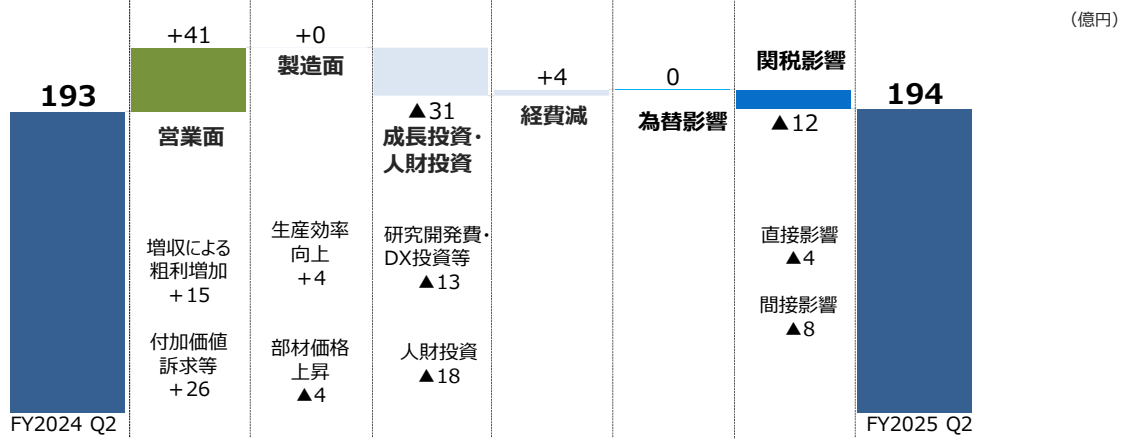
単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
合計	1,343	1,380	+37	+3%	193	194	+1	+1%	14.3%	14.1%	▲0.3pt
計測機器	868	923	+56	+6%	140	147	+7	+5%	16.1%	15.9%	▲0.2pt
医用機器	186	199	+14	+7%	15	20	+5	+33%	8.2%	10.2%	+2.0pt
産業機器	185	161	▲24	▲13%	26	20	▲7	▲25%	14.3%	12.3%	▲2.0pt
航空機器	94	83	▲10	▲11%	11	15	+4	+41%	11.5%	18.2%	+6.7pt

連結 / 営業利益増減要因 (7-9月)



【営業利益】 194億円(前期比+1%) 【営業利益率】 14.1% (対前期▲0.3pt)

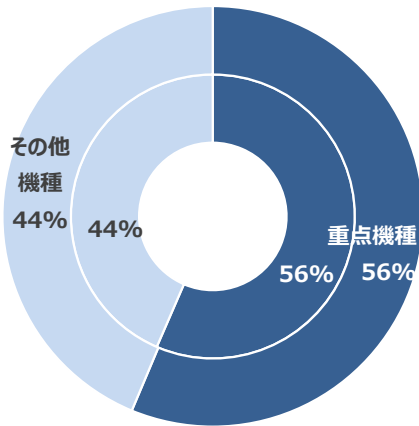
■ 営業面	: 増収や付加価値訴求により増加	+41億円
■ 製造面	: 生産効率向上が部材価格上昇を補えず横ばい	+0億円
■ 成長投資	: 研究開発費などを13億円、人財投資を18億円増やした	▲31億円
■ 関税影響	: 関税増▲4億円、市況悪化に伴う減収による減益▲8億円	▲12億円



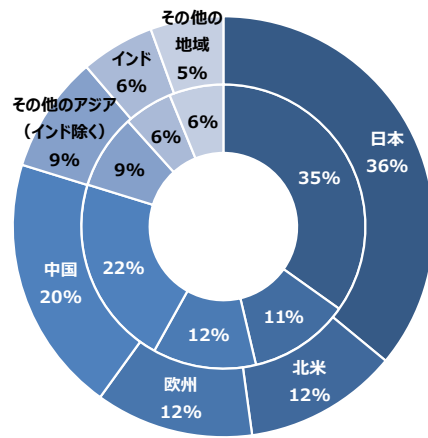
計測機器 / 各種売上高構成比率 (4-9月)



機種別



地域別

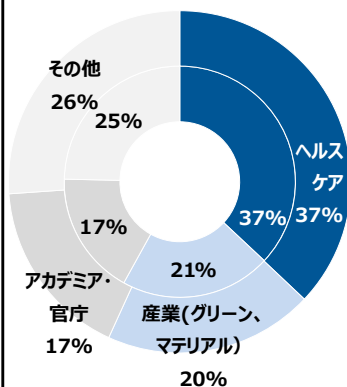


※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

計測機器 / 領域別売上高比率 (4-9月)



市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2024	FY2025		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	37%	37%	+5%	・医薬・食品は日本・北米・東南アジア・インドで増加 ・臨床（医療機関）は北米で増加するも中国・欧州で減少 ・グローバルで増加
産業 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	21%	20%	▲2%	・日本で関税影響により自動車関連が減少 ・日本・欧州でGX関連でGCが増加
アカデミア・官庁	17%	17%	+3%	・北米は政策影響で引き続き低調 ・官庁/大学向けに表面観察システムが伸長

※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

計測機器 / 重点機種売上高前期比



- 重点機種 LC：日本・インドで医薬向けが増加。欧州で官庁・大学向けが増加
MS：日本で食品・大学向けが増加。中国で政府支援策を取り込み増加。
GC：日本・欧州で新製品が化学向けが増加。

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%	+5%
全体	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%	+6%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%	+6%
全体	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%	+7%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器 / 地域別売上高前期比



- 日本：LC、MS、GC、試験機が好調に推移
- 海外：北米・欧州はMSが好調。中国は官需をとらえてMSを中心に回復傾向

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%
北米	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%	+4%
欧州	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%	+13%
中国	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲1%
その他のアジア	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%	+5%
インド	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%	▲1%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%
北米	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%	+5%
欧州	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%	+9%
中国	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%	+1%
その他のアジア	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%	+7%
インド	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%	+0%

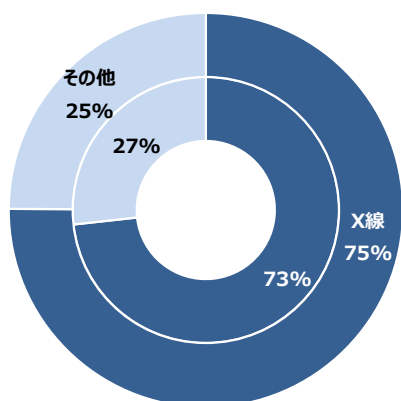
計測機器 / 領域別売上高前期比



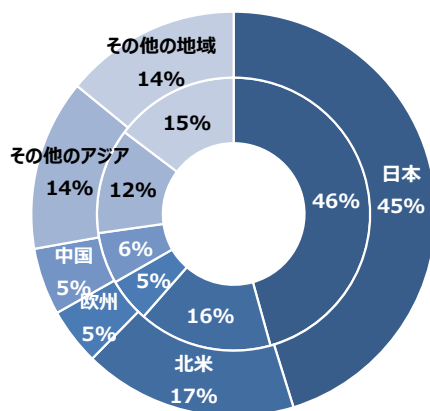
	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
ヘルスケア	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%	+7%
産業 (グリーン、マテリアル)	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%	+1%
アカデミア/官庁	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%	▲1%

※為替影響を含む

機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

医用機器 / 地域別売上高



単位 億円	FY2024	FY2025	前年同期比		概況（中間期）	
			増減額	増減率		
日本	中間期	155	152	▲3	▲2%	<ul style="list-style-type: none"> 前年の大口案件の反動減で放射線治療支援システムが減少 新製品効果で一般撮影システムが増加
	1Q	70	70	+0	+1%	
	2Q	85	82	▲4	▲4%	
海外	中間期	185	184	▲1	▲0%	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上高比率は、54.8%と前年同期比0.4pt増加
	1Q	85	66	▲18	▲21%	
	2Q	100	118	+17	+17%	
北米	中間期	54	57	+4	+7%	<ul style="list-style-type: none"> X線TVシステムや血管撮影システムが新製品効果で伸長
	1Q	24	23	▲1	▲2%	
	2Q	30	34	+4	+14%	
欧州	中間期	18	15	▲2	▲13%	<ul style="list-style-type: none"> 東欧での官公庁予算執行の遅延により減少
	1Q	10	4	▲6	▲63%	
	2Q	8	12	+4	+51%	
中国	中間期	21	18	▲3	▲13%	<ul style="list-style-type: none"> 国家標準規格変更への対応が必要となり、血管撮影システムなどが減少
	1Q	9	9	▲0	▲3%	
	2Q	12	9	▲2	▲20%	
その他の アジア	中間期	43	46	+3	+8%	<ul style="list-style-type: none"> 低被ばくかつ高画質な画像が評価されX線TVシステムや血管撮影システムが増加
	1Q	18	14	▲4	▲20%	
	2Q	25	32	+7	+28%	

医用機器 / 地域別売上高前期比



- 日本：X線機種は新製品効果で増加。放射線治療装置用動体追跡システムが前年の反動で減少
- 海外：北米・その他のアジアでX線TVシステムが増加。中国は市況回復遅れと規制対応により減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%
北米	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%	+40%	+14%	▲2%	+14%
欧州	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%	▲44%	▲14%	▲63%	+51%
中国	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%	▲22%	▲31%	▲3%	▲20%
その他のアジア	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%	+16%	+19%	▲20%	+28%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%	▲4%
北米	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%	▲12%	▲8%	+35%	+8%	+5%	+16%
欧州	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%	▲32%	▲1%	▲42%	▲17%	▲62%	+47%
中国	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%	▲32%	▲37%	▲24%	▲34%	+5%	▲18%
その他のアジア	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%	+41%	▲0%	+13%	+14%	▲14%	+32%

産業機器 / 機種別売上高前期比



- **TMP** : 半導体製造装置向けが減少
- **油圧** : 日本で産業車両向けが好調で増加
- **その他機種** : 日本・中国・韓国でセラミック製造向け工業炉が減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
TMP	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%	+12%	+14%	+3%	▲2%
油圧	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%	▲1%	▲3%	▲3%	+6%
その他	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%	▲16%	+12%	▲19%	▲39%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
TMP	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%	+5%	+9%	+11%	+10%	+8%	▲3%
油圧	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%	▲5%	▲3%	▲1%	▲4%	▲1%	+6%
その他	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%	+40%	+5%	▲16%	+10%	▲16%	▲38%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
 FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカーリング比率



- 計測 : 日本・中国で医薬向け、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 北米・欧州・東南アジアで部品・サービスとも増加
- TMP : 日本・中国・台湾で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高前期比	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%	+6%
リカーリング比率	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%	35%	38%	42%	38%

医用	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高前期比	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%	+5%
リカーリング比率	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%	34%	37%	47%	35%

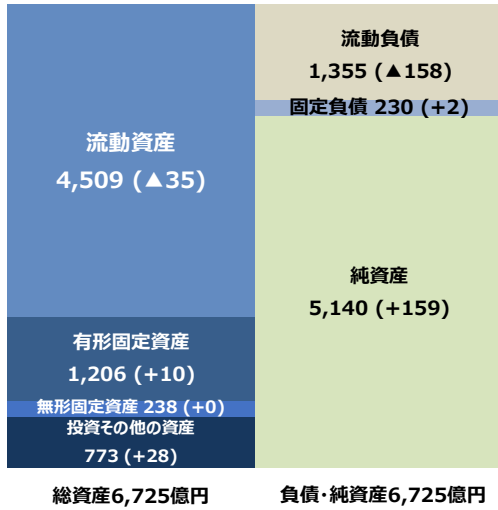
TMP	FY2023					FY2024					FY2025	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
リカーリング売上高前期比	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%	+23%
リカーリング比率	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%	19%	20%	21%	25%

連結財政状態 (中間連結貸借対照表)



- 2025年9月末総資産 6,725億円 (2025年3月末から+3億円)
- 売上債権の回収により、流動資産が減少

(億円)
増減は2025年
3月末対比



資産

流動資産 ▲35億円

- 現金 +88億円
- 売上債権 ▲180億円

負債・純資産

流動負債 ▲158億円

- 支払債務 ▲83億円

純資産 +159億円

- 利益剰余金 +119億円

自己資本比率 76.4% (+2.3pt)